ブロッスムの話

（上）手紙

アメリカ合衆國ヴーモント州の、ある片田舎の百姓家の一室に、今宵主人のアウエンと御客のアーレンといふ宣教師とが、テーブルを眞中に次の樣な話をして居ます。

主『眞實にアーレンさん、私やベンニーを兵隊に出してやった其時は、國中で親として、私程立派な捧げ物を此國にした人は、恐らくあるまいと思ひましたね、イーエ誰一人ありますまい、あの子は哨所でたった一分間眠った許りです、チー貴下、ほんの一分間です。私やもう夫丈だと思ひます、どうして、彼は中々、勤務を粗にする樣な子じやありませんでたった一秒眠った許りだと思ひます、何だって年もとつて居ないし、夫に身體もあまり丈夫でもなかったのですもの！、尤も、脊の高さといったら、そりや私程もありましたよ、けどもまだ、やっと十八になった許りですよ。夫に哨兵勤務中眠つて仕舞ったといふのでとう〳〵銃殺される……二十四時間内にといふ電報ですが、もう二十四時間、ア、今頃ベンニーは何處に居るんでせう？

客『どうも、まことに御氣の毒な次第で、然しまた天の神さまが、何とかして下さるでせう

主『なる程、なる程、吃度どうとかしてくれるに違ありますまい

エート、出て參ります時も、ベンニーは左も自慢相に右の腕を私の前に突き出しましてね、お父あん、私はね、いざといふ時に此太い右の腕を國

の爲に使ふ事が出來ないかと思うと耻かしくって耻かしくって堪らなかったのです。鍬など持つてるよりはいつそのこと萎えてしまへばいゝにと思って、と、こういふのですもの、夫から私しもね、じゃー行け、行て國の爲に働いて來い、神樣がお前を守つて下さるからといってやりましたよ、ヂー、アーレシさん、眞實に神さまが守つて下さったと思ひます、神さまが…』

といつて、尙心で神さまを疑つて居る樣子で、しきりと口の中で、夫をくり返して居ます

アーレンは、ぢつと聞いて居ましたが、重そうな調子で

『そうですとも、決してお疑ひなさるには及びません』

といって居ます。

ブロッスムといふのは、ベンニーの妹で、可愛らしい娘です。前程から二人の側に默つて腰かけて

居ましたが、涙こそ流しませんが、頬の色は眞青になつて居ます、けれどもブロッスムがどれ程心配して居るかといふ事には誰も氣が付きません。暫くすると、とん〳〵と戸をたゝく音がしましたからブロッスムが、すぐ立つて行きました所が夫は郵便配りでした。受取るが早いか、ブロッスムは、一言、『オヤ、兄さんからのですよ』と言つて急いで持つて來ました。丸で死んだ人から、音信があつたかの樣でした。お父あんは手紙を受けとりましたが、手がブル〳〵ふるへて、封を切ることが出來ません。丁度小さい子の樣な風にアーレンに渡すとアーレンはすぐ封じ目を切つて讀み始めました。

さし急ぎ一筆申し殘し候。此書面御落手に相成る頃は、もはや私は此世を去りたる頃と存じ候。始め銃殺の宣告を受け候時は、何となく恐ろしく存じ候ひしが、只今では何の恐も無く候。承はり候へば私は縛られもせず又は兩眼を覆はれも致さずさながら丈夫の如くに死に付くことが出來可申由に御座候。然しながら國の爲め勇ましく戰場にて戰死することこそ丈夫の本懷にも候はめ、哨兵の任務を怠り候との故を以て、銃殺の犬死をなすかと思へば、そゞろに淺ましく存じ候。勿論之には深き子細有之、決して〳〵父上の名譽を汚す譯には之なく候へば、左に一通り申し述ぶべく候。何卒私の死後に於て父上より宜しく友達などへお話し下され度候。

御承知の通り、出軍の際私はジエムミー、カールの事は精々注意致すべき由、彼の母親に約束致したる事に候へば、カールの病に罹り候節の

如さは、私の力の及ぶ限りを盡し候。隊に返る命令を受け候時も、カールは尚十分力づき申さず、夫故あの晩の前日の行進中私は私の荷物の外にカールの行李まで一切背負ひて進み候處日暮方より私共は驅足を始め候所背中の荷物の重さは非常の苦痛を感じ來り候。此時はもはや一隊悉く勞れ果てゝジエムミーの如さは、時々私の腕を貸すことを致さねば、必らず道側に斃れたる事と存じ候、か樣な次第にて營所に着致し候時は、私はもう全く疲れ果て申候。然る處其夜は生憎ジエムミーが、哨兵勤務の番に當り候へども、餘り可愛生に候故、私は代りて勤務致したる事に候へども、如何せん餘りに疲れ果て候事とて、父上、例令鐵砲を頭上に指し向けられ候とも目を覺まし居ること出來難さまで

に相成り、自ら驚きて目を覺まし候時は、もはや後れて間に合ひ申さず

『オーエンさん、どうですどうもベンニーに限つて譯もなく眠つて仕舞ふ樣な事はないと思つて居たが、なる程天晴な者だ』

承はり候へば、敬愛すべき我が大佐は今日私に父上へ書面を出さんか爲め、暫くの猶豫を與へくれ候由、此大佐は誠に親切な方にて、出來るならば喜んで私を放免下さる事と存じ候へども、軍規上致し方なく私を處罰致さるゝ事に候。又何卒今回の事に由り、ジエムミーを惡しからず覺し召し下され度く候。ジエムミーは只今の處、丸で狂氣の樣に相成り私の代はりに自分を處刑せられん事を歎願するの外何事も得致さず

まことに不憫に存じ候。

母上やブロッスムの事は父上宜しく御願ひ申上候何卒父上より私が立派な勇士の如くに死に付き候事を御傳へ下され度候。まだ〳〵申し述べたく候へども思ひ迫りて筆動き申さず、之にて失禮致し候。

嗚呼今夕はいつもの通り牝牛どもは、夫々牧場より歸り居り候はん、可愛き妹のブロッスムは裏門に立つて嘶かし私の歸宅を喜んで待ち受け居らるゝ事と存じ候併し。私は、嗚呼私は遂に歸ることは出來申さず候。何卒〳〵先き立ち候私の罪は御ゆるし下され候て、末長く御息災に御暮しの程神かけて祈り申候　敬具

ベンニーより

父上樣

（下）命乞ひ

其夜も更けて、もう周圍もすつかり靜かになつた時分、此家の裏門の戸を密と開けて出て、水車場への道を急いて行く小さな娘があります。其足の早さといつたら、歩いてるよりか寧ろ飛んで居る樣なものであります。

二時間許り過ぎて、此娘は、其處のステーションに着きました。そこで夜の終列車の來るのを待つてすぐ飛び乘りました。

此娘といふのは、即ちブロッスムで、今からワシントンに行つて大統領のリンコルンに遭つて兄の生命乞をしようといふのであります。尤も家は內所に出たので、たゞ何所へ何しに行くといふ事丈けを書き遺して、兄ベンニーの手紙をポッケットに入て來たのです。途中の停車場を幾つとなく通り過ぎて、急ぎに急いでとうどうワシントンに着

いたので、大急ぎで大統領官舎へ向け走りました

大統領リンコルンは、此朝も早くから出勤して、必要な書類を餘念もなく取り調べて居ますと、取次もなしに、室の戸をそーつと開けて、可愛い、ブロッスムが、うや〳〵しい姿勢で這入つて來ました。で大統領は、あのやさしい愉快相な聲をかけて、

『オー、お前こんなに疾うから、何の用で來た？

『ベンニーの生命を、どうか！

『ベンニー、ベンニーといふのは？

『ハイ、私の兄さんのことで、哨兵勤務を怠りました爲に、銃殺せられる所なんです。

夫と聞いて、大統領は急に机の上の書類に眼を走らせて、

『オー、そー〳〵！夫なら分つて居る、然しお前

あの時は大變危い最中で、ひよつとかすると、も少しで何千人の生命にも係はる位な大切な勤務を怠つたのだよ

『ハイ、お父っあんも其通り申して居ました。夫でも兄さんは、あんなに疲れて居ましたし、夫にジエンニーは病氣でありましたし、閣下、ベンニーは二人前の働きをしましたのです。夫から、あの晩は、眞實はジエムミーの番でしたのですが、彼の人はもう疲れ切てましたから、夫で兄さんが代って勤めたのです。

『ハテナ、お前何をいってるのだ、さー此方へよつてもっとはっきりお話し

といって、まことに親切な方ですから、ブロッスムを引きよせました。

ブロッスムは恐る〳〵近寄りまして、又其話を

仕直してポッケットから兄の書面を出して大統領に渡しました所が、大統領は一言一句丁寧に讀み終りまして、夫から、大急ぎで何か書き付けて呼鈴を鳴らしました。『スグ此使を出してくれ』と這入て來た給使に言ひ付けました。そして置いて又、ブロッスムの方を向いて、

『さー、もう之で宜いから、家へ歸てお父さんにアブラハム、リンコルンはベンニーの生命は銃殺の刑に處するのは餘りおしいから、罪は宥す事に決めたとお話しなさい、さー、お歸り……イヤまー明日まで待って居て、兄さんと一所に歸るかな、兄さんは、非常な手柄だったから、今に出世して明日歸らせることにしよう

ブロッスムは、この親切な言葉に對して、お禮の言ひ樣もない位に有り難いと思ひました。

夫から二日たって、ベンニーはブロッスムをつれて大統領官舍に參りました。參りますとすぐ大統領の居間へ通されましたが、そこでベンニーは兵卒から陸軍少尉に昇進せられましたが、其時大統領の申しましたには『病氣の友達を助けて、其爲めに何もいはないで死に就かうとする程の兵卒は實に國家に取って、最良の軍人といふべきじゃ』

夫から、ベンニーとブロッスムとは、いろ〳〵親切に大統領からお話を聞いて、目出たく二人連れで、お父っあんの所に歸って來ましたといふことです。

いそつぷ物語

其三十四　犬と牡牛

一匹の犬が、まぐさ桶の中に這入て居て、牡牛ど